



# 佐那河内の家 1

所在地 名東郡佐那河内村

床面積 1階95.13㎡ 2階34.27㎡ 合計129.40㎡



## みんなで作り上げた仕事と暮らしの場



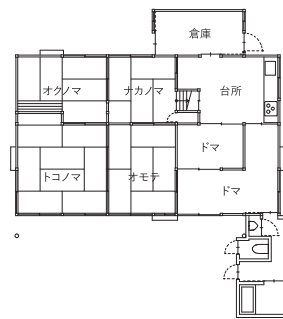
この住宅は佐那河内村の国道沿いに建っていて、道の向こう側には川、畑、田んぼ、山が目の前に広がっています。空き家になって1年あまり経っていましたが、建築士、地元の大工・職人、地域住民によって改修され、現在は事務所兼住宅として活用されています。

うまく実現することができました。

事務所部分は既存の床を取り除いて、地域の土を使った三和土土間としています。床の高さを低くしたことで目の前の景色を眺めながら仕事ができるようになりました。また、床を撤去した時にでた板を壁や建具に再利用しています。三和土土間の施工には多くの地元住民、学生も参加してくれました。移住者も自ら漆喰を塗ったり、また住民には解体、床張りなどいろいろな工事を手伝ってもらい、職人だけでなく、地域の人達も巻き込んでみんなで作り上げた家になりました。

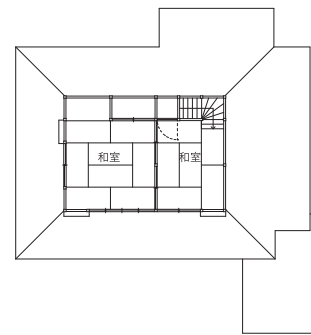


改修のポイントは耐震性を向上させることと、築100年の古民家に事務所と住宅という二つの用途をどう実現させるかでした。耐震性を向上させるためには、限界耐力計算による補強計画を立て、必要な箇所に荒壁パネルによる補強を行いました。間取りは基本的には当初のものを大きく変えることなく、事務所と住宅の二つの用途を

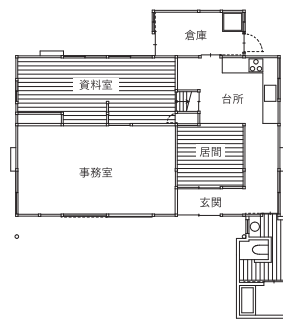


1階

Before

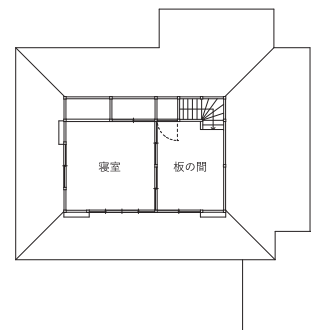


2階

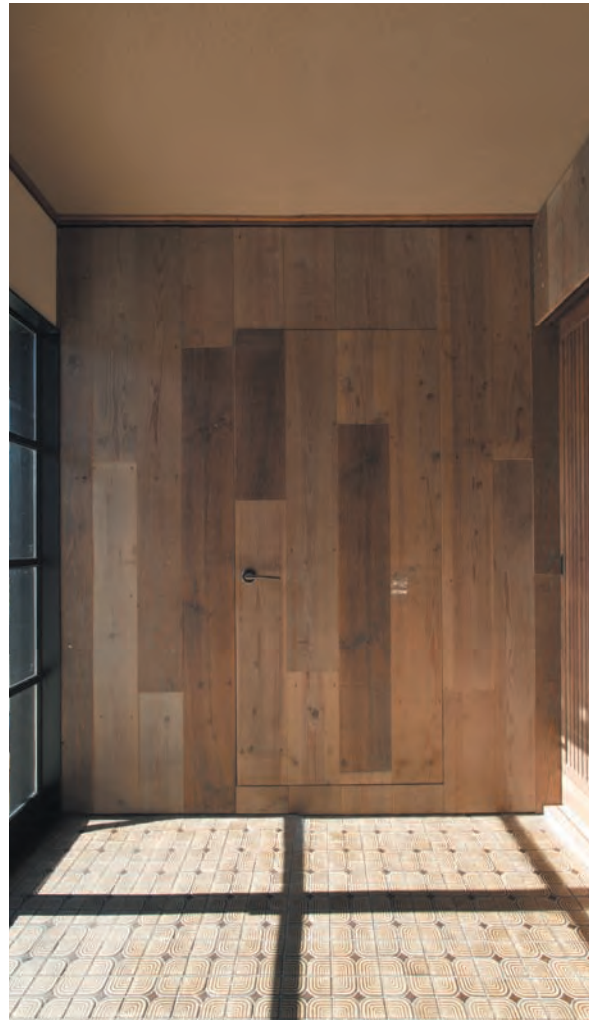


1階

After



2階



## 関係者のお話

自分たちの村からどんどん人が減っていき、空き家が増えていく状況を目の当たりにしながら、「どうにかしないと」と毎日考えていました。そんなとき、佐那河内村には移住希望者が多いということを知りました。空き家の持ち主からすると、知らない人に貸すのはちょっと…という方がたくさんいて、なかなか移住が進まない、そんな状況でした。そこで私たち地元の若手が移住者と空き家の持ち主の間に入って、空き家活用のサポートをしようと「ねごう再生家」という団体を立ち上げました。この家も私たちが間に入ることで、空き家の持ち主、移住者、地域の職人、住人をつないで、スムーズに空き家の活用ができるようになりました。今まで、電気がついていなかった家に灯りがついているのを見ると、やはりうれしいものです。

ねごう再生家代表 伊藤武弘さん